

統合講義概要

科目名	統合講義(2026年度開講)			
担当教員: 下表の右欄参照	単位数: 2単位(90分授業15回)	受講学年 : 1学年 開講学期 : 春学期 曜日・時限 : 月曜日 1,2時限(パソコン室・第4セミナー室) 3,4時限(第4セミナー室)	場所 : 楠元4号館(4301) パソコン室 楠元第4セミナー室	
一般目標	各学問分野を修得するにあたって共通して必要とされる事項の理解を深めると共に、コースワークを通して関連する分野の基礎的素養の涵養を図ることによって、学際的な分野への対応能力を高めることを目的とする。			
講義項目ごとの一般目標(GIO)と到達目標(SBOs)	講義項目とGIO	SBO	担当	
	歯科医学情報処理法 GIO: 歯科医学研究に必要な情報処理の方法について学び、理解を深める	①	(1) 歯学の文献方法を例にして、必要な文献を修得する方法を概説できる。 (2) 医学中央雑誌を利用して、必要な文献を取得できる。 (3) PubMedを利用して文献検索し、必要な文献を取得できる。	歯学部図書委員会 委員長 野本 周嗣 (外科学講座)
		②	(1) 研究デザインの立て方を通して、データの集め方を説明できる。 (2) サンプリングの方法、正規分布、t-testについて説明し、標本の抽出やデータ分析に利用できる。 (3) ノンパラメトリック検定、相関について説明し、データの解析に利用できる。	加藤 一夫 (口腔衛生学講座)
		③	(1) 人工知能(AI)に関連する用語について説明できる。 (2) AIの現状を概説できる。 (3) AIの医療への関わりと今後の展望について概説できる。	林 達秀 (歯科理工学講座)
	歯科基礎医学研究法 GIO: 歯科基礎医学の研究に多用される基本的な方法の原理、手技、応用を学ぶ	①	(1) RT-PCR法により、mRNAレベルで遺伝子発現を解析する方法を概説できる。 (2) 免疫染色法、ウェスタンブロット法等により、タンパク質の細胞内局在を明らかにする方法を概説できる。 (3) フローサイトメトリーにより、細胞を解析する方法を概説できる。 (4) 遺伝子の導入・改変によって細胞の機能を解析する方法を概説できる。	鈴木 崇弘 (生化学講座)
		②	(1) 免疫染色の原理と応用について説明でき、免疫染色技術を実施する手順、抗体の適用、抗原-抗体複合体の検出を含め実践できる。 (2) in situハイブリダイゼーションの原理と応用について説明でき、プローブの準備、ハイブリダイゼーション、信号検出を含め実践できる。	久保 勝俊 (口腔病理学講座)
③		DNAクローニング法を説明し、DNAの塩基配列の解析から遺伝子の機能を解明する方法を概説できる。	長谷川 義明 (微生物学講座)	

	講義項目とGIO	SBO	担当
講義項目ごとの一般目標(GIO)と到達目標(SBOs)	歯科臨床医学研究法GIO: 歯科基礎医学の研究に多用される基本的な方法の原理、手技、応用を学ぶ	① (1) 保存修復学の臨床におけるクリニカルクエスションの発見法について概説できる。 (2) クリニカルクエスションの課題化および課題策展開法について概説できる。	辻本 暁正 (保存修復学講座)
		② (1) トランスレーショナルリサーチについて概説できる。 (2) 基礎研究と臨床研究の違いについて説明できる。 (3) Evidence-Based Dentistryについて概説できる。	諸富 孝彦 (歯内治療学講座)
		③ (1) 研究デザインのエビデンスレベルを概説できる。 (2) 論文のエビデンスレベルに応じた批判的吟味ができる。 (3) エビデンスレベルの高い臨床研究を立案できる。	木本 統 (高齢者・在宅歯科医療学講座)
		④ (1) 補綴装置の累積残存(生存)率について説明できる。 (2) 特定臨床研究について説明できる。	近藤 尚知 (冠橋義歯・口腔インプラント学講座)
		⑤ (1) 口腔癌の分子生物学的研究法と臨床研究法について概説できる。 (2) 顎変形症の診断と治療に関わる臨床研究法について概説できる。 (3) 摂食嚥下障害における病因、検査、訓練立案について概説できる。 (4) 歯数異常に関与する遺伝子の研究法について概説できる。	後藤 満雄 (口腔顎顔面外科学講座)
		⑥ (1) 臨床研究とその立案方法について概説できる。 (2) 臨床研究に必要な倫理審査申請書類の作成方法について概説できる。	名和 弘幸 (小児歯科学講座)
		⑦ (1) 検査法や装置の診断能の評価法を概説できる。 (2) 機械学習システムの性能の評価法を概説できる。	木瀬 祥貴 (歯科放射線学講座)
		⑧ 歯科と全身疾患のトランスレーショナルリサーチについて概説できる。	成瀬 桂子 (内科学講座)
	歯科医学研究理論GIO: 歯科医学研究を行う上で必要な研究理論について学ぶ	(1) 医学研究の実施に関する倫理規範について概説できる。 (2) 研究活動における不正行為について説明できる。	歯学研究科主任
1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。			
テキスト 教材 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医学情報処理法②の授業に必要なもの：統計のテキスト(正規、t、x^2、Fの各分布表のついているもの)、電卓、USBメモリー(要領128MB以上) ・ 歯科医学情報処理法③の授業に必要なもの：ノートブックパソコン(無線LANに接続できない場合は、LANケーブル持参) 		
備考	統合講義は本学大学院学則第4条別表9に記載されている「その他許可を得た科目」の講義として扱い、統合講義(2単位)は、副科目の単位として換算することができる。		

科目名	口腔解剖学(口腔組織・発生学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 本田 雅規	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:金曜日・2時限 場所:口腔解剖学研究室
一般目標	基本組織、統合細胞生物学および生体防御系を理解し、Essentials of Stem Cell Biology(3rd Edition)を通して、再生医学研究を学ぶための幹細胞に関する基礎知識を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 細胞内の構造と機能を説明できる。 (2) 上皮および上皮腺の構造・機能ならびに発生と分類を説明できる。 (3) 細胞のシグナル伝達を説明できる。 (4) 結合組織の分類と構成する細胞を説明できる。 (5) 細胞外マトリックスを説明できる。 (6) 骨形成を説明できる。 (7) 血液と血漿を説明できる。 (8) 造血を説明できる。 (9) 筋組織を説明できる。 (10) 神経組織を説明できる。 (11) 感覚器を説明できる。 (12) 免疫を説明できる。 (13) リンパを説明できる。 (14) Part I「Introduction of Stem Cells」の記載内容を説明できる。(P3~) (15) Part II「Basic Biology / Mechanisms」の記載内容を説明できる。(P59~)		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	組織細胞生物学(第3版、南江堂)および Essentials of Stem Cell Biology(3rd Edition, Academic Press)を講義で使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔解剖学(口腔解剖形態学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 山本将仁	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:金曜日・2時限 場所:解剖学研究室
一般目標	頭頸部領域の肉眼解剖学の研究を遂行する上で必要な骨学、筋学、脈管学、内臓学、神経学を系統的に学び、個体変異の考察に必須の知識となる鰓性器官の発生を学ぶ。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 頭頸部の構造の概要を説明できる。(頭頸部の構造の概要の理解) (2) 頭蓋の骨を説明できる。(頭蓋の骨の理解) (3) 翼口蓋窩、眼窩を説明できる。(頭蓋の交通路の理解) (4) 鼻腔と副鼻腔を説明できる。(鼻腔と副鼻腔の理解) (5) 表情筋を説明できる。(表情筋の理解) (6) 顎運動に関与する筋(咀嚼筋、舌骨筋)を説明できる。(顎運動の理解) (7) 嚥下に関与する筋群を説明できる。(嚥下の理解) (8) 脳神経を説明できる。(脳神経の理解) (9) 頭頸部の自律神経を説明できる。(頭頸部の自律神経の理解) (10) 頭頸部の動脈系を説明できる。(頭頸部の動脈系の理解) (11) 頭頸部の静脈系、リンパ系を説明できる。(頭頸部の静脈系、リンパ系の理解) (12) 口腔を説明できる。(口腔の理解) (13) 唾液腺を説明できる。(唾液腺の理解) (14) 咽頭と喉頭を説明できる。(咽頭と喉頭の構造の理解) (15) 鰓弓と咽頭嚢を説明できる。(鰓弓と咽頭嚢の構造の理解)		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	解剖学講義(南山堂) ラングマン人体発生学(メディカル・サイエンス・インターナショナル) グレイ解剖学(エルゼビアジャパン)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔生理学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 豊田 博紀 森田 匠 畑中 伸彦	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・1時限 場所:生理学研究室または実習室
一般目標	顎・口腔・顔面領域における諸器官の解剖学および機能学的特徴を理解すると共に、研究を遂行する上で必要とされる口腔生理学の知識を習得し、神経生理学的手法およびその解析方法を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 咀嚼運動の特徴と意義を説明できる。 (2) 咀嚼運動の制御機構を説明できる。 (3) 嚥下運動の特徴と意義を説明できる。 (4) 嚥下運動の制御機構を説明できる。 (5) 唾液分泌の特徴と意義を説明できる。 (6) 唾液分泌の制御機構を説明できる。 (7) 口腔感覚(歯痛を含む)の特徴と意義を説明できる。 (8) 口腔感覚(歯痛を含む)の発現機構を説明できる。 (9) 味覚の特徴と意義を説明できる。 (10) 味覚の発現機構を説明できる。 (11) パッチクランプ法を用いた神経活動の記録および解析方法について説明できる。 (12) 磁気センサーを利用した下顎運動記録手技について説明できる。 (13) 画像記録法による下顎運動記録手技について説明できる。 (14) 咀嚼筋からの筋電図記録手技および解析方法について説明できる。 (15) 大脳皮質電気刺激を用いた下顎運動や嚥下誘発手技について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・火曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔生化学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 鈴木 崇弘	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:水曜日・1又は2時限 場所:生化学研究室または実習室
一般目標	細胞の分泌機構とその制御を行う細胞内シグナル伝達機構を分子レベルで学ぶと共に、研究を遂行する上で必要とされる生化学・分子生物学・細胞生物学的知識を修得し、遺伝子工学を中心とした研究方法を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 生体膜の構造と構成分子とその役割を説明できる。 (2) 細胞内のタンパク質輸送に関わる細胞内小器官の役割を説明できる。 (3) 分泌タンパク質の生合成・翻訳後修飾を説明できる。 (4) 膜タンパク質の生合成・翻訳後修飾を説明できる。 (5) エキソサイトーシス(開口分泌)とエンドサイトーシスの分子機構を説明できる。 (6) 細胞内小胞輸送機構における輸送小胞の出芽・輸送・融合過程を説明できる。 (7) 分泌タンパク質と膜タンパク質の細胞膜への輸送機構を説明できる。 (8) 輸送タンパク質の分解機構と異常による蓄積・小胞体ストレスについて説明できる。 (9) 分泌タンパク質と膜タンパク質の遺伝子発現機構を説明できる。 (10) 細胞内シグナル伝達によるタンパク質輸送の制御機構を説明できる。 (11) 分泌タンパク質と膜タンパク質の定量的な解析法・細胞内局在解析法を説明できる。 (12) 分泌タンパク質と膜タンパク質の結合について説明できる。 (13) バイオインフォマティクスを利用した遺伝子発現ベクターを設計法を説明できる。 (14) 遺伝子工学手法を利用したタンパク質の輸送機構の解析法を説明できる。 (15) 蛍光タンパク質・生物発光タンパク質を利用したタンパク質輸送の解析法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・水曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔病理学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 杉田 好彦 久保 勝俊	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:受講学年:1又は2学年 開講学期:開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・1又は2時限 場所:口腔病理学・歯科法医学講座研究室
一般目標	病理診断に必要な基本的組織形態および各種病態について学び、先進的病理学研究および病理診断の為の基礎知識を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 基本的病理診断方法 -1- 各種細胞および組織の正常形態を説明できる。 (2) 基本的病理診断方法 -2- 代謝障害における病態を説明できる。 (3) 基本的病理診断方法 -3- 循環障害における病態を説明できる。 (4) 基本的病理診断方法 -4- 炎症における病態を説明できる。 (5) 基本的病理診断方法 -5- 腫瘍における病態を説明できる。 (6) 基本的病理診断方法 -6- 実験動物における各種病態を説明できる。 (7) 実践的病理診断方法 -7- 病理診断の流れとその手法を説明できる。 (8) 実践的病理診断方法 -8- HE染色とその他の特殊染色方法を説明できる。 (9) 実践的病理診断方法 -9- 免疫染色法を説明できる。 (10) 実践的病理診断方法 -10- in situ hybridization (ISH)を説明できる。 (11) 実践的病理診断方法 -11- Fluorescence in situ hybridization (FISH)を説明できる。 (12) 実践的病理診断方法 -12- 病理診断における細胞診と遺伝子解析方法を説明できる。 (13) 実践的病理診断方法 -13- 実際の症例を通じて病理診断の手法を総合的に説明できる。 (14) 実践的病理診断方法 -14- 複雑症例に対する鑑別診断および報告書作成の実際を説明できる。 (15) 実践的病理診断方法 -15- 病理診断の問題点を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配付資料・動画コンテンツ第3版 新口腔病理学、ロビンス基礎病理学 原書第10版		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔微生物学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 長谷川 義明 西川 清	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日・2時限 場所:微生物学研究室または実習室
一般目標	微生物の分子遺伝学的、タンパク質工学的、ならびに免疫学的解析法について原理を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 微生物学概論を説明できる。 (2) 微生物取り扱いにおける法律および管理体制を説明できる。 (3) 微生物学研究に利用される形態学的検査法を列挙できる。 (4) 微生物の遺伝学を説明できる。 (5) 分子遺伝学概論を説明できる。 (6) 組換え実験の法律および管理体制を説明できる。 (7) 分子遺伝学に用いられる技術を列挙できる。 (8) 微生物を用いた組換え遺伝学を説明できる。 (9) タンパク質工学概論を説明できる。 (10) タンパク質研究に用いられる電気泳動法(等電点電気泳動、2次元電気泳動等)を列挙できる。 (11) タンパク質研究に用いられるタンパク質同定法(マス・スペクトロメトリー等)を説明できる。 (12) タンパク質研究に用いられる立体構造解析法を説明できる。 (13) タンパク質工学に用いられる免疫学的技術概論を説明できる。 (14) タンパク質工学に用いられる免疫学的解析法(ウェスタンブロット法等)を説明できる。 (15) 微生物の分子遺伝学的、タンパク質工学的、ならびに免疫学的解析法を総括して説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Periodontal Pathogens: Methods and Protocols (Methods in Molecular Biology)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科薬理学特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 濱村 和紀	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・3又は4時限 場所:薬理学研究室
一般目標	糖鎖修飾が生体のホメオスタシスに重要な役割を果たす一方、癌や神経変性疾患などの様々な疾患の発症に関与することが明らかになっている。糖鎖修飾による細胞や臓器への調節機構を学ぶことで口腔領域だけではなく、より広い分野の研究を理解するための基礎を作る。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 糖鎖生物学研究の概要を説明できる。 (2) 糖鎖修飾の基本原則を説明できる。 (3) 糖鎖の構造を説明できる。 (4) 糖鎖生合成と分解を説明できる。 (5) スフィンゴ糖脂質を説明できる。 (6) タンパク質への糖鎖修飾を説明できる。 (7) 糖鎖によるホルモン分泌調節を説明できる。 (8) 糖鎖による免疫調節を説明できる。 (9) 糖鎖による神経発生と再生を説明できる。 (10) 糖鎖による骨代謝制御を説明できる。 (11) 癌悪性形質獲得における糖鎖の関わりを説明できる。 (12) 神経変性疾患における糖鎖の関わりを説明できる。 (13) 感染制御における糖鎖の関わりを説明できる。 (14) 内分泌疾患における糖鎖の関わりを説明できる。 (15) 糖鎖を標的とした薬物治療を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	適宜、資料を配布する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・火曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科理工学特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 林 達秀 鶴田 昌三	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・4時限 場所:歯科理工学実験室
一般目標	生体材料の基礎知識を修得し、各種材料の成形の手法を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 各種国際規格の内容を説明できる。 (2) 金属成形法について説明できる。 (3) 3次元造形による金属成型法について説明できる。 (4) 金属表面処理の方法を説明できる。 (5) CAD/CAMに用いる器械について説明できる。 (6) CAD/CAMを用いてジルコニアクラウンを作製できる。 (7) CAD/CAMを用いてハイブリッドレジンクラウンを作製できる。 (8) セラミックスの焼結ができる。 (9) 口腔内スキャナーの操作について説明できる。 (10) 未分化筋肉組織の器官培養法を説明できる。 (11) 器官培養法における軟骨誘導を説明できる。 (12) 骨形成因子の作製方法を説明できる。 (13) タンパク質の大量抽出法について説明できる。 (14) BMPの生物学的特性を説明できる。 (15) 毒性物質の代謝方法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	スタンダード歯科理工学、臨床歯科理工学、配布資料		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔衛生学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 嶋崎 義浩 加藤 一夫	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:金曜日・3時限 場所:口腔衛生学研究室
一般目標	歯と口腔の健康増進を臨床歯科学という面から研究する方法と科学を学ぶことを目標とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 口腔衛生学の概念と方法論を説明できる。 (2) 口腔環境とう蝕・歯周病との関係を説明できる。 (3) 口腔と全身の健康の関係を説明できる。 (4) 疫学の概念と手法について説明できる。 (5) 統計分析手法について説明できる。 (6) スクリーニングの応用について説明できる。 (7) 歯科疾患の疫学現象の実際のデータからの把握について説明できる。 (8) 公衆歯科衛生活動の地域展開について説明できる。 (9) 健康教育、ヘルスプロモーションを説明できる。 (10) 母子・学校・成人・高齢者の歯科保健活動について説明できる。 (11) 地域歯科保健にみられる行政の活動について説明できる。 (12) 地域歯科保健における歯科医師の活動について説明できる。 (13) Self careとして口腔清掃補助器具・歯磨剤について説明できる。 (14) 齲蝕予防処置論としてフッ化物応用・小窩裂溝充填塞について説明できる。 (15) 歯周疾患・口腔粘膜疾患・その他口腔疾患予防処置法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	口腔保健・予防歯科学 第二版(医歯薬出版)、Essential Dental Public Health(Oxford)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所は受講者と相談する場合がある。		

科目名		歯科保存学(保存修復学)特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 辻本 暁正 友田 篤臣	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:月曜日・1時限 場所:保存修復学講座研究室
一般目標	歯の硬組織疾患治療学の教育法・指導法を理解するために、その基礎と応用を修得する。保存修復領域における接着歯学を修得するために、当該分野の最新の知識を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯の硬組織疾患の病態を説明できる。 (2) 象牙質歯髄複合体の保護を説明できる。 (3) 歯の硬組織疾患の検査・診断法を説明できる。 (4) 歯の硬組織疾患の治療法を説明できる。 (5) 診療設備・機械器具を列挙し説明できる。 (6) 修復補助法を列挙し説明できる。 (7) 直接および間接修復を説明し示すことができる。 (8) 高齢者の歯の硬組織疾患治療の特徴を説明できる。 (9) 歯の漂白法を説明し示すことができる。 (10) 硬組織疾患へのレーザーの応用を説明できる。 (11) 歯質とレジンの接着を説明できる。 (12) 各種被着体(レジン、金属、セラミックス)とレジンの接着を説明できる。 (13) 接着修復と象牙質歯髄複合体の関係を説明できる。 (14) 接着試験法を説明できる。 (15) 接着修復を応用した臨床を示すことができる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	保存修復21、接着歯学、う蝕治療ガイドライン、根面う蝕の診療ガイドライン、歯髄保護の診療ガイドライン		
成績評価の方法	授業への積極性、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・月曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	保存修復学(歯内治療学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 諸富 孝彦	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:月曜日・1又は2時限 場所:歯内治療学講座研究室
一般目標	歯髄疾患および根尖性歯周疾患の病因的理解を深め、診査・検査・診断および治療法を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯内治療学の概要について説明できる。 (2) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の病因について説明できる。 (3) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の臨床病理について説明できる。 (4) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の進行と経過について説明できる。 (5) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の診査・検査について説明できる。 (6) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の診断法について説明できる。 (7) 歯髄疾患及び根尖性歯周疾患の治療方針について説明できる。 (8) 根未完成歯の歯内治療について説明できる。 (9) 歯根の病的吸収について説明できる。 (10) 外傷歯の診断と処置について説明できる。 (11) 外科的歯内治療について説明できる。 (12) マイクロスコープを応用した歯内治療について説明できる。 (13) 歯科用コーンビームCTによる画像診断について説明できる。 (14) 歯内-歯周疾患について説明できる。 (15) 高齢者の歯内治療について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Pathways of the Pulp 第11版(Mosby)、Dental Pulp 第2版(Quintessence)、新編 治癒の病理(医歯薬出版)、リクッチのエンドドントロジー(クインテッセンス出版)、各種学術雑誌など		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春/秋学期・月曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科保存学(歯周病学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 三谷 章雄 林 潤一郎	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1学年 開講学期:春学期 曜日・時限:月曜日・1時限 場所:臨床教育研究棟6階 歯周病学講座研究室
一般目標	歯周病の発症に関わる免疫応答や引き続いて起こる組織破壊に関わるサイトカインについての概要、歯周病と全身疾患との関連についての歴史的背景・最新の研究動向ならびにin vivo, in vitro実験に必要な手技について理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯周組織の構造、歯周病の病因および歯周病治療について説明できる。 (2) 免疫系の構成要素と自然免疫および抗原の認識を説明できる。 (3) T細胞を介する免疫系と体液性免疫を説明できる。 (4) 骨代謝と炎症性骨吸収に関わる骨免疫学を説明できる。 (5) 歯周病原細菌の菌体成分や代謝産物の特徴を説明できる。 (6) 歯周病および歯周基本治療・歯周外科治療による全身への影響について説明できる。 (7) 歯周病と糖尿病の関係について説明できる。 (8) 歯周病と心臓血管疾患、細菌性肺炎、アルツハイマー病、がん、早産・低出生体重児、関節リウマチの関係について説明できる。 (9) 基礎研究および臨床研究の進め方について説明できる。 (10) 実験動物の飼育と繁殖を説明できる。 (11) 組織切片の作製および染色による形態観察と画像を用いた形態計測を説明できる。 (12) 培養細胞実験の概要及びサンプルの採取・保存を説明できる。 (13) フローサイトメーターによる表面抗原解析とqPCR法による遺伝子発現解析を説明できる。 (14) ELISA法によるタンパク定量およびウェスタンブロット法によるタンパク質のリン酸化分析を説明できる。 (15) 研究成果の発表や発信の方法について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	臨床歯周病学第4版, Journal of Periodontology, Journal of Clinical Periodontology, Journal of Periodontal Researchほか		
成績評価の方法	授業への積極性、学習成果の発表内容およびレポート・口頭試問等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(有床義歯学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 武部 純 尾澤 昌悟	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:金曜日・2時限 場所:有床義歯学講座研究室
一般目標	歯科補綴学の応用編として顎顔面補綴学について学び、顎骨や顔面の欠損に対する治療法を習得する。アタッチメントを適用した特殊な義歯の基礎やデジタル機器を使用した有床義歯補綴の応用術式について習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 頭頸部腫瘍の病態を説明できる。 (2) 頭頸部癌に対する手術療法や、放射線治療と化学療法について説明できる。 (3) 癌治療に使用する補助装置を列挙できる。 (4) 上顎欠損に対する顎補綴治療について説明できる。 (5) 言語機能と舌接触補助装置について説明できる。 (6) 下顎欠損に対する顎補綴治療について説明できる。 (7) 顎顔面インプラント治療について説明できる。 (8) 顔面欠損に対する治療法を説明できる。 (9) アタッチメント義歯の製法について説明できる。 (10) 有限要素法について説明できる。 (11) 生体情報の3次元モデル化について説明できる。 (12) デジタルデータの3次元構築について説明できる。 (13) 補綴歯科に応用する生体材料について説明できる。 (14) インプラントを応用した有床義歯について説明できる。 (15) CAD/CAMを応用した義歯の設計について説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Maxillofacial Rehabilitation 3rd Edition, 磁性アタッチメント、続・磁性アタッチメント McCraken's Removable Partial Prosthodontics 13th Edition		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(高齢者・在宅歯科医療学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 木本 統 竹内 一夫 水野 辰哉 宮前 真	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・1時限 場所:高齢者・在宅歯科医療学講座研究室
一般目標	全部床義歯による補綴治療、高齢者の歯科治療、口腔管理、口腔ケアに関する知識、診断能力、技術を修得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全部床義歯による補綴治療について説明できる。 (2) 全部床義歯の難症例の治療について説明できる。 (3) 高齢者の全身状態の評価について説明できる。 (4) 高齢患者や家族に対する治療方針の説明と同意について説明できる。 (5) 高齢者の口腔機能と口腔機能低下症について説明できる。 (6) 高齢者の咀嚼機能と検査について説明できる。 (7) 高齢者の摂食・嚥下機能と検査と訓練について説明できる。 (8) 高齢者の構音機能と検査について説明できる。 (9) 高齢者の口腔の微生物検査法について説明できる。 (10) 高齢者の精神・心理学的検査法について説明できる。 (11) 高齢者の唾液と全身状態や口腔の関係について説明できる。 (12) 高齢者の栄養状態の評価と管理について説明できる。 (13) 高齢者の口腔ケアについて説明できる。 (14) 在宅歯科医療と多職種連携について説明できる。 (15) 地域包括ケアについて説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	・Prosthodontic Treatment for Edentulous Patients(12th. Ed.) ・Textbook of Geriatric Dentistry (3rd. Ed.) ・よくわかる高齢者歯科学		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・火曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談の上、変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(口腔インプラント学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 近藤尚知	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・1又は2時限 場所:冠橋義歯・口腔インプラント学講座研究室または補綴科診療室・手術エリア
一般目標	口腔インプラント治療に必要な臨床手技を学ぶとともに、より高度な治療(骨組織・粘膜組織の造成、デジタル歯科技術等)の臨床意義を、さらには、新規治療技術の開発のための研究を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯の欠損の生じる原因と歯の欠損に対する治療方法について説明できる。 (2) インプラント体と上部構造の構成要素を説明できる。 (3) 回復されるべき理想的な歯冠形態と咬合に関する基本的事項を説明できる。 (4) 顎骨の形態と血管・神経の走行について図示しながら説明できる。 (5) インプラント治療に際し、必要な検査について説明できる。 (6) シミュレーション診断に必要なデータと埋入シミュレーションの基本原則について説明できる。 (7) ガーデッド・サージェリーについて説明できる。 (8) インプラント埋入手術に必要な器材と術式について説明できる (9) インプラント治療に必要な骨造成手術について説明できる。 (10) インプラント治療における2次手術、結合組織移植術、遊離歯肉移植術等について説明できる。 (11) インプラント治療における印象採得に必要な器具と方法について説明できる (12) 口腔内スキャナーによる光学印象採得法を説明できる。 (13) インプラントの上部構造に用いられる材料と製作法(CAD/CAM)について説明できる。 (14) インプラントに付与すべき咬合について説明できる。 (15) インプラント周囲炎の検出方法と治療方法について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・水曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(冠・橋義歯学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 近藤 尚知 橋本 和佳 佐久間 重光	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・1又は2時限 場所:冠橋義歯・口腔インプラント学講座研究室または実習室
一般目標	有歯顎における咬合のメカニズムを理解する		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 哺乳動物の食性と咀嚼運動を説明できる。 (2) 下顎位と顎頭位の関係を説明できる。 (3) 咬頭嵌合位と顎頭安定位の関係を説明できる。 (4) 下顎偏心位と下顎運動①筋活動との関係を説明できる。 (5) 下顎偏心位と下顎運動②咀嚼運動との関係を説明できる。 (6) アンテリアガイダンスとポステリアガイダンスを説明できる。 (7) ヒンジアキスとキネマティックアキスを説明できる。 (8) 咬合器の基本的な構造を説明できる。 (9) 咬合器の種類と特徴を説明できる。 (10) 下顎の動きと咬合器の可動域の関係を説明できる。 (11) 平線咬合器の機能と用途を説明できる。 (12) 平均値咬合器の機能と用途を説明できる。 (13) 調節性咬合器の限界と用途を説明できる。 (14) 各種半調節性咬合器とそれぞれの特徴を説明できる。 (15) 全調節性咬合器の意義を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	「臨床家のためのオクルージョン」、「顎運動とそのメカニズム」		
成績評価の方法	授業への積極性、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・火曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔外科学(全身疾患関連口腔内科学)特論																															
担当教員 (○:責任者)	○ 阿部 厚	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:病院診療室																														
一般目標	各口腔外科疾患に特徴的な外科的治療法を中心として療法を習得することを目的とする。																																
到達目標 ()内は 講義回を示す	<table border="0"> <tr> <td>(1) 炎症性疾患</td> <td>①軟組織の炎症を説明できる</td> </tr> <tr> <td>(2) 炎症性疾患</td> <td>②顎骨の炎症を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(3) 炎症性疾患</td> <td>③特異性炎、顎部蜂窩織炎を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(4) 先天異常</td> <td>①口唇裂を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(5) 先天異常</td> <td>②口蓋裂を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(6) 先天異常</td> <td>③その他を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(7) 鼻咽腔閉鎖不全</td> <td>を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(8) 発育不全</td> <td>①下顎骨発育不全を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(9) 発育不全</td> <td>②上顎骨発育不全を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(10) 外傷</td> <td>①軟組織損傷を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(11) 外傷</td> <td>②歯の損傷を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(12) 外傷</td> <td>③顎骨骨折を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(13) 外傷</td> <td>④創傷治療を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(14) 嚢胞性疾患</td> <td>①軟組織嚢胞を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(15) 嚢胞性疾患</td> <td>②顎骨内嚢胞を説明できる。</td> </tr> </table>			(1) 炎症性疾患	①軟組織の炎症を説明できる	(2) 炎症性疾患	②顎骨の炎症を説明できる。	(3) 炎症性疾患	③特異性炎、顎部蜂窩織炎を説明できる。	(4) 先天異常	①口唇裂を説明できる。	(5) 先天異常	②口蓋裂を説明できる。	(6) 先天異常	③その他を説明できる。	(7) 鼻咽腔閉鎖不全	を説明できる。	(8) 発育不全	①下顎骨発育不全を説明できる。	(9) 発育不全	②上顎骨発育不全を説明できる。	(10) 外傷	①軟組織損傷を説明できる。	(11) 外傷	②歯の損傷を説明できる。	(12) 外傷	③顎骨骨折を説明できる。	(13) 外傷	④創傷治療を説明できる。	(14) 嚢胞性疾患	①軟組織嚢胞を説明できる。	(15) 嚢胞性疾患	②顎骨内嚢胞を説明できる。
(1) 炎症性疾患	①軟組織の炎症を説明できる																																
(2) 炎症性疾患	②顎骨の炎症を説明できる。																																
(3) 炎症性疾患	③特異性炎、顎部蜂窩織炎を説明できる。																																
(4) 先天異常	①口唇裂を説明できる。																																
(5) 先天異常	②口蓋裂を説明できる。																																
(6) 先天異常	③その他を説明できる。																																
(7) 鼻咽腔閉鎖不全	を説明できる。																																
(8) 発育不全	①下顎骨発育不全を説明できる。																																
(9) 発育不全	②上顎骨発育不全を説明できる。																																
(10) 外傷	①軟組織損傷を説明できる。																																
(11) 外傷	②歯の損傷を説明できる。																																
(12) 外傷	③顎骨骨折を説明できる。																																
(13) 外傷	④創傷治療を説明できる。																																
(14) 嚢胞性疾患	①軟組織嚢胞を説明できる。																																
(15) 嚢胞性疾患	②顎骨内嚢胞を説明できる。																																
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。																																
テキスト・教材・ 参考書等	口腔外科学 医歯薬出版。 適宜資料を配布する。																																
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。																																
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。																																

科目名		口腔外科学(病因病態制御口腔顎顔面外科学)特論																
担当教員 (○:責任者)	○ 後藤 満雄 宮地 斉 渡邊 哲	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:口腔顎顔面外科学講座研究室又は病院診療室															
一般目標	口腔顎顔面外科の概要について知る。口腔顎顔面外科疾患の病因的理解を深める。治療法の基礎からその発展段階、将来展望を知る。手術学を学ぶ。以上を習得することを目標とする。																	
到達目標 ()内は 講義回を示す	<table border="0"> <tr> <td>(1) 口腔顎顔面疾患臨床ガイドンス</td> </tr> <tr> <td>(2) 口腔顎顔面外科の世界の現状と日本とを対比することが出来る。</td> </tr> <tr> <td>(3) 口腔顎顔面外科の隣接科との関連性と連携を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(4) 口腔顎顔面外科の臨床・研究文献を抄読して個々に考察できる。</td> </tr> <tr> <td>(5) 口腔顎顔面領域の腫瘍について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(6) 口腔顎顔面領域の先天疾患について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(7) 口腔顎顔面領域の外傷について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(8) 口腔顎顔面領域の形態的異常について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(9) 口腔顎顔面領域の機能的障害について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>(10) 身体検査について討論できる。</td> </tr> <tr> <td>(11) 画像診断について討論できる。</td> </tr> <tr> <td>(12) 治療手段、方法、技術について討論できる。</td> </tr> <tr> <td>(13) 手術学:腫瘍</td> </tr> <tr> <td>(14) 手術学:顎変形症</td> </tr> <tr> <td>(15) 手術学:その他</td> </tr> </table>			(1) 口腔顎顔面疾患臨床ガイドンス	(2) 口腔顎顔面外科の世界の現状と日本とを対比することが出来る。	(3) 口腔顎顔面外科の隣接科との関連性と連携を説明できる。	(4) 口腔顎顔面外科の臨床・研究文献を抄読して個々に考察できる。	(5) 口腔顎顔面領域の腫瘍について説明できる。	(6) 口腔顎顔面領域の先天疾患について説明できる。	(7) 口腔顎顔面領域の外傷について説明できる。	(8) 口腔顎顔面領域の形態的異常について説明できる。	(9) 口腔顎顔面領域の機能的障害について説明できる。	(10) 身体検査について討論できる。	(11) 画像診断について討論できる。	(12) 治療手段、方法、技術について討論できる。	(13) 手術学:腫瘍	(14) 手術学:顎変形症	(15) 手術学:その他
(1) 口腔顎顔面疾患臨床ガイドンス																		
(2) 口腔顎顔面外科の世界の現状と日本とを対比することが出来る。																		
(3) 口腔顎顔面外科の隣接科との関連性と連携を説明できる。																		
(4) 口腔顎顔面外科の臨床・研究文献を抄読して個々に考察できる。																		
(5) 口腔顎顔面領域の腫瘍について説明できる。																		
(6) 口腔顎顔面領域の先天疾患について説明できる。																		
(7) 口腔顎顔面領域の外傷について説明できる。																		
(8) 口腔顎顔面領域の形態的異常について説明できる。																		
(9) 口腔顎顔面領域の機能的障害について説明できる。																		
(10) 身体検査について討論できる。																		
(11) 画像診断について討論できる。																		
(12) 治療手段、方法、技術について討論できる。																		
(13) 手術学:腫瘍																		
(14) 手術学:顎変形症																		
(15) 手術学:その他																		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。																	
テキスト・教材・ 参考書等	適宜資料を配布する。																	
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。																	
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。																	

科目名	口腔外科学(言語・口腔先天異常学)特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 夏目 長門 新美 照幸	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:愛知学院大学歯学部附属病院
一般目標	頭頸部・口腔領域に関する先天異常についての基礎的臨床的研究について理解する。 言語学に関する基礎的臨床的研究を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 先天異常について説明できる。 (2) 口腔先天異常について説明できる。 (3) 口唇口蓋裂の発生機序について説明できる。 (4) 口腔先天異常と遺伝について説明できる。 (5) 口腔先天異常と疫学と予防について説明できる。 (6) 臨床応用への展望 頭頸部、口腔領域に関する疾患について基礎分野を理解して臨床に活用できる。 (7) 言語学・音声学の基礎を理解する。 (8) 言語発達学の基礎を理解する。 (9) 音響学(聴覚心理学を含む。)の基礎を理解する。 (10) 社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む。)の基礎を理解する。 (11) 言語聴覚障害学(言語聴覚障害診断学を含む。)について理解する。 (12) 失語・高次脳機能障害学について理解する。 (13) 言語発達障害学(脳性麻痺(ひ)及び学習障害を含む。)について理解する。 (14) 発声発語・嚥(えん)下障害学(音声障害、構音障害及び吃(きつ)音を含む。)について理解する。 (15) 聴覚障害学(小児聴覚障害、成人聴覚障害、聴力検査並びに補聴器及び人工内耳を含む。)について理解する。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	1. Epidemiology of cleft lip and plate(Nagato Natsume 著) 2. 口唇口蓋裂に関する基礎的研究(夏目長門 著) 3. Current Experimental Study for Treatment of Cleft Lip and palate(Nagato Natsume 著) 4. 言語聴覚士をめざすひとの為に(夏目長門 著) 5. 構音障害の臨床(安部雅子 著) 6. 言語聴覚士のための口腔外科学(夏目長門 編) 7. Understanding of Education For Training Speech Language Hearing Therapist in Japan (N.Natsume)他関連図書		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科矯正学特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 宮澤 健 藤原 琢也 田淵 雅子 佐藤 琢麻	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・4時限 場所:歯科矯正学講座研究室
一般目標	成長発育過程にある咬合の育成、維持ならびに不正咬合の改善と予防を理解するとともに、不正咬合の改善に必要な歯の移動メカニズムと矯正治療に用いる歯科材料を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯の移動様式について説明できる。 (2) 全身の成長発育について説明できる。 (3) 顎口腔の成長発育について説明できる。 (4) 不正咬合の成因について説明できる。 (5) 加齢と不正咬合について説明できる。 (6) 各種全身疾患と矯正歯科治療について説明できる。 (7) 歯周病と矯正歯科治療について説明できる。 (8) 習癖と不正咬合について説明できる。 (9) 顎運動について説明できる。 (10) 骨代謝と歯の移動について説明できる。 (11) 新しい矯正用材料の可能性について説明できる。 (12) 矯正歯科材料の特徴について説明できる。 (13) 矯正装置の変遷について説明できる。 (14) 新しい矯正装置の方向性について説明できる。 (15) 矯正歯科における臨床研究の重要性について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	歯科矯正学 第7版、矯正歯科治療 この症例にこの装置、 チェアサイド・ラボサイドの新矯正装置ビジュアルガイド		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	小児歯科学特論		
担当教員 (○:責任者)	○ 名和 弘幸	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:金曜日・1又は2時限 場所:小児歯科学講座研究室
一般目標	哺乳機能、咀嚼・嚥下機能など高次の口腔機能の発達とそれに関連する顎顔面・口腔諸器官の発育過程を理解するとともに、それらを障害する要因についての基礎的知識を理解し、口腔の機能と形態の評価・診断法を習得することを目的とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 口腔機能の発達および障害について説明できる。 (2) 哺乳期・離乳期の機能の発達および発育過程について説明できる。 (3) 幼児期の発達および形態の発育過程について説明できる。 (4) 顔面・頭蓋・歯列の評価・診断法について説明できる。 (5) 心理発達の診査・診断法を説明できる。 (6) 齲蝕の診査・診断法と早期発症型齲蝕について説明できる。 (7) 小児歯科における小手術と埋伏過剰歯への対応を説明できる。 (8) 行動調整法の種類と選択について説明できる。 (9) 成長期の歯列と咬合との関係、および口腔習癖について説明できる。 (10) 小児期の咀嚼・嚥下機能の評価・診断法を説明できる。 (11) 口腔周囲筋・顎運動の評価・診断法について説明できる。 (12) 習癖と口腔筋機能療法(MFT)との関係を説明できる。 (13) 障害児への対応の仕方を説明できる。 (14) 内科的合併症を持った小児への対応の仕方を説明できる。 (15) 児童虐待と医療安全について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	特になし		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。なお、職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・金曜日・6時限を予定する。		

科目名	歯科放射線学講義		
担当教員 (○:責任者)	○ 木瀬 祥貴	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜 4時限 場所:
一般目標	画像形成理論の理解を深め、画像診断の研究に必要な画像評価法や統計的手法を習得し論文作成法を身につける。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) ガイダンス (2) 基本的統計法を説明できる。 (3) ROC解析の概要を説明できる。 (4) ROC解析の適応を説明できる。 (5) ROC解析の限界を説明できる。 (6) エックス線画像形成理論を説明できる。 (7) CT画像形成理論を説明できる。 (8) 歯科用CT画像形成理論を説明できる。 (9) MRI画像形成理論を説明できる。 (10) 超音波画像形成理論を説明できる。 (11) エックス線画像評価法を説明できる。 (12) CT画像評価法を説明できる。 (13) 歯科用CT画像評価法を説明できる。 (14) MRI画像評価法を説明できる。 (15) 超音波画像評価法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	なし		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・火曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談の上変更する場合がある。		

科目名		歯科麻酔学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 佐藤曾士	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:水曜日・1又は2時限 場所:場所:麻酔学講座研究室
一般目標	全身麻酔の概念及び各臓器に対する麻酔の影響、薬の作用機序、蘇生法を学ぶことで歯科麻酔学をより深く理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 全身麻酔の概念と麻酔管理について説明できる。 (2) 麻酔の循環器系におよぼす影響を説明できる。 (3) 麻酔の呼吸器系におよぼす影響を説明できる。 (4) 麻酔の脳・脊髄機能におよぼす影響を説明できる。 (5) 麻酔の自律神経機能におよぼす影響を説明できる。 (6) 吸入麻酔薬について説明できる。 (7) 静脈麻酔薬について説明できる。 (8) 筋弛緩薬について説明できる。 (9) 吸入麻酔薬と静脈麻酔薬による全身麻酔法について説明できる。 (10) 笑気吸入鎮静法について説明できる。 (11) 静脈内鎮静法について説明できる。 (12) 小児の麻酔管理について説明できる。 (13) 障害者の麻酔管理について説明できる。 (14) 疼痛管理学について説明できる。 (15) 蘇生法について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Anesthesia, edited by RD. Miller, Churchill-Livingstone 歯科麻酔学、金子讓監修、医歯薬出版		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・水曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		歯科病態内科学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 成瀬 桂子 中村 信久	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:月曜日 場所:内科学講座研究室
一般目標	歯科疾患と関連する内科疾患に関する病態生理を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 歯科疾患に関連する循環器疾患(心不全、虚血性心疾患)の病態生理を説明できる。 (2) 歯科疾患に関連する循環器疾患(不整脈、心臓弁膜症)の病態生理を説明できる。 (3) 歯科疾患に関連する代謝疾患(糖尿病)の病態生理を説明できる。 (4) 歯科疾患に関連する代謝疾患(メタボリックシンドローム、ビタミン欠乏症等)の病態生理を説明できる。 (5) 歯科疾患に関連する内分泌疾患の病態生理を説明できる。 (6) 歯科疾患に関連する腎疾患の病態生理を説明できる。 (7) 歯科疾患に関連するアレルギー疾患の病態生理を説明できる。 (8) 歯科疾患に関連する神経疾患(脳血管障害)の病態生理を説明できる。 (9) 歯科疾患に関連する神経疾患(神経変性疾患、認知症等)の病態生理を説明できる。 (10) 歯科疾患に関連する消化器疾患の病態生理を説明できる。 (11) 歯科疾患に関連する感染症の病態生理を説明できる。 (12) 歯科疾患に関連する呼吸器疾患の病態生理を説明できる。 (13) 歯科疾患に関連する血液疾患の病態生理を説明できる。 (14) 歯科疾患に関連する膠原病(関節リウマチ、SLE等)の病態生理を説明できる。 (15) 歯科疾患に関連する膠原病(Sjögren症候群、Behçet病等)の病態生理を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	内科学(第12版)矢崎義雄、小室一成 総編集 朝倉書店 配布資料		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		歯科病態関連外科学(外科腫瘍学)特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 野本 周嗣	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:月曜日3又は4時限 場所:外科学講座研究室
一般目標	患者の周術期管理に関係する生理を学ぶことで学術的な理解を深める。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 循環器系の生理と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (2) 呼吸器系の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (3) 神経・感覚器系の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (4) 腎臓の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (5) 肝臓の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (6) 消化管の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (7) 造血管系の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (8) 血液・凝固と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (9) 免疫系の生理と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (10) 感染対策と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (11) 運動器系の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (12) 代謝・内分泌系の生理と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (13) 栄養・水・電解質と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (14) 生殖系系の生理と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。 (15) 高齢者の生理・腫瘍と口腔疾患と外科学との関わりを説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	標準外科学第17版、田邊 稔監修、医学書院		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		宇宙歯学特論	
担当教員 (○:責任者)	○ 杉田 好彦 久保 勝俊	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:開講学期:春学期 曜日・時限:木曜日・1又は2時限 場所:口腔病理学・歯科法医学講座研究室
一般目標	宇宙歯学は、微小重力や閉鎖環境などの宇宙特有の条件が口腔および全身に及ぼす影響を歯学的に理解し、宇宙滞在や宇宙旅行における口腔健康管理と歯科医療の確立を目指す学際的分野である。本特論では、宇宙環境下における口腔疾患の病態、予防・診断・治療の基礎と最新知見を体系的に学び、将来の宇宙医療および次世代歯科医療を担うための科学的思考力と研究基盤を養うことを一般目標とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 宇宙歯学概論:宇宙歯学の成立背景、定義、目的を理解し、歯学における新たな学際領域としての位置づけを説明できる。 (2) 宇宙環境の基礎:宇宙特有の物理・生理環境が人体に及ぼす影響を概説し、歯学研究との関連を説明できる。 (3) 宇宙滞在が全身生理に及ぼす影響:体液シフト、骨代謝変化、免疫機能低下などの全身影響を整理し、口腔との関連性を説 (4) 宇宙環境と口腔組織の変化:歯、歯周組織、顎骨、口腔粘膜に及ぼす宇宙環境の影響について基礎的知見を説明できる。 (5) 宇宙における骨代謝と顎骨変化:微小重力下における骨吸収・骨形成の変化と顎骨・歯槽骨への影響を説明できる。 (6) 宇宙環境と口腔免疫・感染症:免疫低下と口腔細菌叢の変化、感染リスクについて説明できる。 (7) 宇宙環境下における口腔疾患のリスク評価:う蝕、歯周病、口内炎、顎関節症などの発症リスクを総合的に評価・説明でき (8) 宇宙歯科医療の現状と課題:国際宇宙ステーション(ISS)等における医療体制と歯科対応の現状を説明できる。 (9) 宇宙歯科医療機器と技術開発:簡易歯科治療器具、レーザー・LED、テレデンティストリーなどの技術を説明できる。 (10) 宇宙における歯科予防医学:水資源制限下での口腔ケア、予防戦略、セルフケア技術について説明できる (11) 宇宙歯学とフォトバイオモジュレーション:PBM(低出力レーザー・LED)の基礎と、宇宙医療への応用の可能性を説明でき (12) 宇宙歯学研究モデルと実験手法:模擬微小重力実験、 <i>in vitro</i> ・ <i>in vivo</i> モデルを用いた研究手法を説明できる。 (13) 宇宙歯学と地上歯科医療への応用:高齢者医療、災害歯科医療、遠隔医療などへの応用可能性を説明できる。 (14) 宇宙歯学の将来展望:宇宙旅行・月・火星居住時代を見据えた歯科医療の課題と展望を説明できる。 (15) 総括・研究発表・討論:講義内容を総括し、受講者による発表・討論を通じて理解を深化させる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	配付資料・動画コンテンツ、宇宙航空研究開発機構(JAXA)およびアメリカ航空宇宙局(NASA)HP		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔解剖学(口腔組織・発生学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 本田 雅規	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限: 金曜日・2時限 場所:口腔解剖学研究室
一般目標	幹細胞および再生医学に関する最新の論文から研究手法を学び、実際の研究に参加して、研究に必要な基本的実験手技を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 培養細胞を凍結保存し、凍結細胞を解凍して再培養することができる。 (2) ラットの歯から歯髄をとりだすことができる。 (3) ラットの歯髄から細胞を単離することができる。 (4) ラット歯髄細胞の植え継を行うことができる。 (5) ラット歯髄細胞を均一に培養皿に播種することができる。 (6) BMP・DEXを用いた間葉系幹細胞の骨芽細胞分化誘導ができる。 (7) DEX・IBMXを用いた間葉系幹細胞の脂肪細胞分化誘導ができる。 (8) STRO-1・CD105を指標にフローサイトメーターで幹細胞を分取できる。 (9) 培養細胞の固定を行い、サイトケラチン抗体を用いた免疫蛍光染色を行うことができる。 (10) 培養細胞の免疫蛍光染色ができる。 コラーゲン抗体 (11) 免疫蛍光染色を行った細胞を観察することができる。 (12) 組織の固定を行うことができる。 (13) 固定した組織のパラフィン包埋を行うことができる。 (14) パラフィン切片を作製することができる。 (15) ヘマトキシリン-エオジン染色を行うことができる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配布資料がある。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔解剖学(口腔解剖形態学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 山本将仁	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:金曜日・2時限 場所:解剖学研究室
一般目標	in situ ハイブリダイゼーション法の原理と基本手技を修得し、口腔組織における遺伝子発現を適切に可視化・解析して研究に応用できる力を身に付ける。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) in situハイブリダイゼーション法の概要と原理を説明できる。(in situハイブリダイゼーション法の概要と原理の理解) (2) in situハイブリダイゼーション法と免疫染色法との違いを説明できる。(in situハイブリダイゼーション法と免疫染色法との違いの理解) (3) in situハイブリダイゼーション法の種類を説明できる。(in situハイブリダイゼーション法の種類の理解) (4) in situハイブリダイゼーションのプロープの作製法を説明できる。(プロープの作製法の理解) (5) in situハイブリダイゼーションの試料作製(固定法)を説明できる。(試料固定法の理解) (6) in situハイブリダイゼーションの試料作製(パラフィン切片薄切法)を説明できる。(パラフィン切片作製法の理解) (7) in situハイブリダイゼーションの試料作製(凍結切片薄切法)を説明できる。(凍結切片作製法の理解) (8) 切片を用いたin situハイブリダイゼーション法を説明できる。(切片を用いたin situハイブリダイゼーション法の理解) (9) ホールマウント in situハイブリダイゼーション法を説明できる。(ホールマウント in situハイブリダイゼーション法の理解) (10) in situ チップを用いたin situハイブリダイゼーション法を説明できる。(in situチップを用いた in situハイブリダイゼーション法の理解) (11) in situハイブリダイゼーション法の洗浄法を説明できる。(洗浄法の理解) (12) in situハイブリダイゼーション法の結果の観察法(実験顕微鏡、正立型顕微鏡による観察法)を説明できる。 (13) in situハイブリダイゼーション法の結果の観察法(共焦点レーザー顕微鏡による観察法)を説明できる。(共焦点レーザー顕微鏡の理解) (14) in situハイブリダイゼーション法の結果の画像処理法を説明できる。(画像処理法の理解) (15) in situハイブリダイゼーション法を用いた研究を説明できる。(in situハイブリダイゼーション法を用いた研究応用の理解) 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	適宜指定する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔生理学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 豊田 博紀 森田 匠 畑中 伸彦	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜日・2時限 場所:生理学研究室または実習室
一般目標	生理学講座で行われているマウス脳スライス標本を用いた電気生理学実験、ウサギ下顎運動解析についての急性実験、およびラット嚙下運動の電気生理学実験に参加し、基礎的実験手技を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) パッチクランプ実験:人工灌流液を作製できる。 (2) パッチクランプ実験:スライス脳標本を作製できる。 (3) パッチクランプ実験:パッチクランプ法を用いたニューロン活動の記録ができる。 (4) パッチクランプ実験:電圧固定法によるシナプス電流の記録ができる。 (5) パッチクランプ実験:電流固定法による活動電位の記録ができる。 (6) 麻酔下での急性動物実験:ウサギで人工呼吸およびガス麻酔の導入ができる。 (7) 麻酔下での急性動物実験:咬筋、顎二腹筋、外側翼突筋に筋電図記録電極を設置できる。 (8) 麻酔下での急性動物実験:下顎運動記録用の磁気センサーおよび磁石の設置ができる。 (9) 麻酔下での急性動物実験:大脳皮質咀嚼野電気刺激により咀嚼様運動を誘発できる。 (10) 麻酔下での急性動物実験:咀嚼様運動時の筋電図および下顎運動の同時記録ができる。 (11) 覚醒下慢性動物からの記録:ステレオ装置を用いた頭部固定手術を実施できる。 (12) 覚醒下慢性動物からの記録:開頭手術・筋電図用電極の埋入ができる。 (13) 覚醒下慢性動物からの記録:ガラス被覆エルジロイ電極を作製できる。 (14) 覚醒下慢性動物からの記録:皮質内微小電極法によるマッピング・誘発筋電図の測定ができる。 (15) 覚醒下慢性動物からの記録:自発運動で誘発される大脳皮質神経活動を記録できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・火曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔生化学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 鈴木 崇弘	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:水曜日・1又は2時限 場所:生化学研究室または実習室
一般目標	生物発光タンパク質と蛍光タンパク質を利用した遺伝子工学技術、微量生体成分の検出法およびイメージング法について理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 生物発光現象の分子機構を説明できる。 (2) 生物発光タンパク質の基本的性質を説明できる。 (3) 蛍光タンパク質の基本的性質を説明できる。 (4) タンパク質発現ベクターを設計できる。 (5) 核酸の調製とPCRによるDNA増幅を行うことができる。 (6) 発現ベクターの遺伝子組み換え手順を説明できる。 (7) 株化ほ乳類細胞を培養できる。 (8) ほ乳類細胞への遺伝子導入法を説明できる。 (9) 生物発光および蛍光検出による生体微量成分定量法を説明できる。 (10) レポーター遺伝子を用いた遺伝子発現解析法を説明できる。 (11) バイオイメージング法の基本原理を説明できる。 (12) 蛍光抗体染色法を説明できる。 (13) 細胞内タンパク質動態の蛍光イメージング法を説明できる。 (14) タンパク質分泌動態の生物発光イメージング法を説明できる。 (15) タンパク質輸送を制御する細胞内シグナル伝達機構解析法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・水曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔病理学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 杉田 好彦 久保 勝俊	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・1又は2時限 場所:口腔病理学・歯科法医学講座研究室
一般目標	基本的な病理標本の作製手技および染色方法を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 基本的な病理標本の作製手技 ① 病理組織学的検査方法の意義と病理組織標本作製手順を説明で (2) 基本的な病理標本の作製手技 ② 組織の採取一切り出しから固定方法を説明できる。 (3) 基本的な病理標本の作製手技 ③ 脱灰方法を説明できる。 (4) 基本的な病理標本の作製手技 ④ 脱水から包埋方法を説明できる。 (5) 基本的な病理標本の作製手技 ⑤ 薄切方法を説明できる。 (6) 基本的な病理標本の作製手技 ⑥ 凍結切片作製方法を説明できる。 (7) 基本的な病理標本の作製手技 ⑦ 細胞塗抹標本、組織スタンブ標本作製方法を説明できる。 (8) 基本的な染色手技 ① 染色方法一染色の理論を説明できる。 (9) 基本的な染色手技 ② ヘマトキシリン・エオジン染色、パパニコロウ染色方法を説明できる。 (10) 基本的な染色手技 ③ 光学顕微鏡における観測一組織像の見方を説明できる。 (11) 基本的な染色手技 ④ 特殊染色法とその評価方法を説明できる。 (12) 基本的な染色手技 ⑤ 免疫染色法とその評価方法を説明できる。 (13) 基本的な染色手技 ⑥ in situ hybridization (ISH)およびFluorescence in situ (14) 基本的な染色手技 ⑦ 組織標本の写真撮影方法を説明できる。 (15) 基本的な染色手技 ⑧ 病理診断への利用方法を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	配付資料・動画コンテンツ第3版 新口腔病理学、ロビンス基礎病理学 原書第10版		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔微生物学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 長谷川 義明 西川 清	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日・2時限 場所:微生物学研究室または実習室
一般目標	微生物の分子遺伝学的、タンパク質工学的、ならびに免疫学的解析法について、基礎的な操作を行うことができる。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 微生物および細胞の培養を行うことができる。 (2) 微生物のグラム染色および特殊染色を行うことができる。 (3) 微生物および動物細胞を対象として、染色体DNAおよびRNAの精製を行うことができる。 (4) PCR法およびReal-time定量PCR法を行うことができる。 (5) 組換えDNA技術の習得1(遺伝子の切断と結合)を行うことができる。 (6) 組換えDNA技術の習得2(大腸菌の形質転換)を行うことができる。 (7) 組換えDNA技術の習得3(形質転換株のスクリーニング)を行うことができる。 (8) 組換えDNA技術の習得4(プラスミドの精製)を行うことができる。 (9) SDS-PAGE法およびウェスタンブロット法を行うことができる。 (10) ELISAを行うことができる。 (11) タンパク質の同定(TOF/MSによるタンパク質同定)を説明できる。 (12) タンパク質の精製(ゲル濾過カラム、イオン交換カラム)を行うことができる。 (13) 組換えタンパク質の精製(アフィニティーカラムによる精製)を行うことができる。 (14) 分子遺伝学的解析法について、本演習で扱った内容を総括して説明できる。 (15) タンパク質工学的および免疫学的解析法について、本演習で扱った内容を総括して説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	Periodontal Pathogens: Methods and Protocols (Methods in Molecular Biology)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科薬理学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 濱村 和紀	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜日・3又は4時限 場所:薬理学研究室
一般目標	糖鎖による骨代謝の研究における基本事項から最近の研究動向までを理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 糖鎖による骨代謝研究の意義と課題を説明できる。 (2) 糖鎖による骨代謝研究の基本的事項を説明できる。 (3) 糖転移酵素遺伝子欠損による骨形成への影響を説明できる。 (4) 糖転移酵素遺伝子欠損による骨吸収への影響を説明できる。 (5) 糖鎖による骨代謝研究の手法① フローサイトメトリー法を説明できる。 (6) 糖鎖による骨代謝研究の手法② 薄層クロマトグラフィー法を説明できる。 (7) 糖鎖による骨代謝研究の手法③ リアルタイムPCR法を説明できる。 (8) 糖鎖による骨代謝研究の手法④ ウェスタンブロッティング法を説明できる。 (9) 糖鎖による骨代謝研究の手法⑤ 蛍光イメージング法を説明できる。 (10) 糖鎖による骨代謝研究の手法⑥ ELISA法を説明できる。 (11) 糖鎖による骨代謝研究の手法⑦ マウス骨髄よりマクロファージを分離する方法を説明できる。 (12) 糖鎖による骨代謝研究の手法⑧ マウス骨髄より間葉系幹細胞を分離する方法を説明できる。 (13) スフィンゴ糖脂質による骨芽細胞増殖・分化制御機構を説明できる。 (14) スフィンゴ糖脂質による破骨細胞分化制御機構を説明できる。 (15) 脂質ラフトにおける骨芽細胞および破骨細胞の増殖・分化シグナル調節機構を説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	適時、資料を配布する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・火曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科理工学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 林 達秀 鶴田 昌三	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・3時限 場所:歯科理工学実験室
一般目標	機器分析の方法を理解し物質の同定、定量法の基礎を修得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) X線回折の基本原理を説明できる。 (2) X線回折装置を用いて、結晶相の同定ができる。 (3) セラミックスの結晶相の同定ができる。 (4) XMAの基本原理を説明できる。 (5) XMAからの情報の整理ができる。 (6) 蛍光X線装置の基本原理を説明できる。 (7) 蛍光X線顕微鏡を用いて材料の同定ができる。 (8) 引張り試験法の原理を説明できる。 (9) 引張り試験、圧縮試験を行なうことができる。 (10) データのExcel処理ができる。 (11) データの統計処理ができる。 (12) レオメータの基本原理を説明できる。 (13) 硬さ試験機の基本原理を説明できる。 (14) ヌープ硬さ試験機を用いて硬さの測定ができる。 (15) ピッカー硬さ試験機を用いて硬さの測定ができる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	スタンダード歯科理工学、臨床歯科理工学、配布資料		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・木曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名		口腔衛生学演習	
担当教員 (○:責任者)	○ 嶋崎 義浩 加藤 一夫	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:金曜日・4時限 場所:口腔衛生学研究室
一般目標	口腔衛生学研究で用いられる方法・手技を演習習得することを目的とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 口腔衛生学の概念と方法論を示すことができる。 (2) 口腔環境とう蝕・歯周病との関係を示すことができる。 (3) 口腔と全身の健康の関係を示すことができる。 (4) 疫学概念と手法について示すことができる。 (5) 統計分析を行うことができる。 (6) スクリーニングを応用することができる。 (7) 歯科疾患の疫学現象を実際のデータから把握できる。 (8) 公衆歯科衛生活動の地域展開ができる。 (9) 健康教育、ヘルスプロモーションを行うことができる。 (10) 母子・学校・成人・高齢者の歯科保健活動を実践できる。 (11) 地域歯科保健にみられる行政の活動を示すことができる。 (12) 地域歯科保健における歯科医師の活動を示すことができる。 (13) Self careとして口腔清掃補助器具・歯磨剤の選択や指導を行うことができる。 (14) 齲蝕予防処置論としてフッ化物応用・小窩裂溝填塞を実践できる。 (15) 歯周疾患・口腔粘膜疾患・その他口腔疾患予防処置法を実践できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	口腔保健・予防歯科学 第二版(医歯薬出版)、Essential Dental Public Health(Oxford)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所は受講者と相談する場合がある。		

科目名		歯科保存学(保存修復学)演習	
担当教員 (○:責任者)	○ 辻本 暁正 友田 篤臣	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日・1時限 場所:保存修復学講座研究室 歯科保存科診療室
一般目標	う蝕制御学、接着歯学、レーザー歯学の基礎的・臨床的な知識を修得し、治療の実際について理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) う蝕の病因・制御学を説明できる。 (2) う蝕の病理学/疫学/微生物学を説明できる。 (3) う蝕と唾液との関連を説明できる。 (4) う蝕のリスクファクターを説明できる。 (5) MIのコンセプトに基づくう蝕制御学を説明できる。 (6) 接着歯学概論について説明できる。 (7) 接着の科学・理論について説明できる。 (8) 各種被着体へのレジン接着を説明できる。 (9) 各種接着材を列挙し説明できる。 (10) 接着を応用した修復治療法を列挙し診療室で実施できる。 (11) 歯の形態学について説明できる。 (12) レーザーの基礎知識を説明できる。 (13) レーザーの安全衛生管理を説明できる。 (14) 保存修復領域におけるレーザー応用を説明し診療室で実施できる。 (15) 各種レーザーの特性を説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	保存修復学21、接着歯学、レーザー歯学の手引き		
成績評価の方法	授業への積極性、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・月曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科保存学(歯内治療学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 諸富 孝彦	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日・1又は2時限 場所:歯内治療学講座研究室
一般目標	現在の歯内治療における様々な課題説明に必要な各種の研究法を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 象牙質・歯髄複合体の構造と特殊性について概説できる。 (2) 歯髄再生療法について概説できる。 (3) 歯内治療に関する病理組織学的研究について概説できる。 (4) 歯髄疾患および根尖性歯周疾患の原因菌について概説できる。 (5) 細胞・組織を用いたin vitroにおける各種研究方法について概説できる。 (6) 動物実験法について概説できる。 (7) 遺伝子発現解析法について概説できる。 (8) タンパク質発現解析法について概説できる。 (9) 材料工学的実験法について概説できる。 (10) AIを用いた画像解析診断について概説できる。 (11) Evidence Based Dentistryについて概説できる。 (12) Evidence Levelについて概説できる。 (13) 歯科用コーンビームCTを用いた画像診断研究について概説できる。 (14) トランスレーショナル・リサーチ(橋渡し研究)について概説できる。 (15) 臨床研究について概説できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Pathways of the Pulp 第11版(Mosby)、Dental Pulp 第2版(Quintessence)、新編 治癒の病理(医歯薬出版)、リクッチのエンドドントロジー(クインテッセンス出版)、各種学術雑誌など		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春/秋学期・月曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科保存学(歯周病学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 三谷 章雄 林 潤一郎	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日・1時限 場所:臨床教育研究棟6階 歯周病学講座研究室
一般目標	歯周病の発症に関与する細菌因子、宿主因子、環境因子と宿主の応答に関し、特に当講座で行っているプロジェクトの臨床的・基礎的概要を理解するとともに、歯周治療やインプラント治療に現在利用可能な再生医療材料・薬剤の基礎的概念、実際の利用法および歯周病科での臨床成績のデータ収集等の協力を行うことにより、臨床研究の手法を修得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 細菌因子・宿主因子・環境因子の関係を理解し、歯周治療の基本的な手技を実践できる。 (2) 薬物と歯肉増殖症の関係について示すことができる。 (3) 歯周病原細菌の体細胞への影響について示すことができる。 (4) 歯周組織における病的状態が口腔以外の領域の健康に与える影響について示すことができる。 (5) キーストンである<i>Porphyromonas gingivalis</i>の役割およびレッドコンプレックスのビルレンス因子 (6) 歯周病原細菌と歯肉上皮細胞、線維芽細胞、歯根膜細胞との相互作用について示すことができる。 (7) 歯周病の治癒形態と再生医療の基礎的概念について示すことができる。 (8) 再生医療と組織工学について示すことができる。 (9) 口腔内写真を整理し読み取りを実践でき、歯周組織再生療法の適応診断と歴史的変遷について示す (10) 骨移植材の種類および性状およびGTR、エナメルマトリックスタンパク質などの再生医療材料の性状 (11) FGF-2の歯周組織再生医薬品としての効果について示すことができる。 (12) 歯周組織再生療法の実践方法・予後・予知性について示すことができる。 (13) 歯周組織再生療法に関する最新の基礎研究と臨床研究について示すことができる。 (14) 新規の再生足場材料および細胞治療の開発について示すことができる。 (15) 医療人として必要な基本姿勢・態度を実践でき、臨床研究の進め方について示すことができる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	臨床歯周病学第4版, Journal of Periodontology, Journal of Clinical Periodontology, Journal of Periodontal Researchほか		
成績評価の方法	授業への積極性、課題の達成度、学習成果の発表内容およびレポート・口頭試問等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(有床義歯学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 武部 純 尾澤 昌悟	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:春学期 曜日・時限:火曜日・4時限 場所:補綴科診療室、技工室
一般目標	アタッチメントを適用した義歯の製作法を理解し、義歯の装着により変化する口腔機能を評価する方法を習得する。またデジタル機器を活用した有床義歯製作法についても修得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) アタッチメントの応用:モデルを使用した操作方法について説明できる。 (2) 磁性アタッチメント:モデルを使用した義歯の操作方法について説明できる。 (3) 有限要素法の応用:モデルを使用した操作方法について説明できる。 (4) 生体情報のモデル化:生体情報を使用した操作方法について説明できる。 (5) 3次元モデルの解析方法:モデルを使用した操作方法について説明できる。 (6) 支台装置の臨床統計:臨床データからの解析方法について説明できる。 (7) インプラントを応用した有床義歯:モデルを使用した操作方法について説明できる。 (8) デジタルデータの3次元構築:デジタルデータを使用した操作方法について説明できる。 (9) 総合的な咀嚼機能評価について説明できる。 (10) 総合的な発語機能評価について説明できる。 (11) 総合的な嚥下機能評価について説明できる。 (12) 多重比較とロジスティクス解析法について説明できる。 (13) 口腔機能の評価法について説明できる。 (14) CAD/CAMを応用した義歯設計:モデルを使用した操作方法について説明できる。 (15) CAD/CAMを応用した義歯製作法:モデルを使用した製作方法と材料特性について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	磁性アタッチメント、続・磁性アタッチメント、McCraken's Removable Partial Prosthodontics 13th Edition		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・金曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(高齢者・在宅歯科医療学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 木本 統 竹内 一夫 水野 辰哉 宮前 真	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜日・1時限 場所:高齢者・在宅歯科医療学講座研究室 附属病院 補綴科4階診察室
一般目標	全部床義歯による補綴治療、高齢者の歯科治療、口腔管理、口腔ケアに関する知識、診断能力、技術を修得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 全部床義歯の研究方法について説明できる。 (2) 高度な全部床義歯の治療法について説明できる。 (3) 高齢者歯科学の研究手法の概要と文献検索について説明できる。 (4) 高齢者に対する高度な歯科治療について説明できる。 (5) 口腔機能低下に関する研究について説明できる。 (6) 高齢者の咀嚼機能検査・診断・治療について説明できる。 (7) 高齢者の嚥下機能検査・診断・治療について説明できる。 (8) 高齢者の構音機能検査・診断・治療について説明できる。 (9) 高齢者の口腔機能と精神・心理学的な研究について説明できる。 (10) 高齢者の口腔機能と社会的な研究について説明できる。 (11) 高齢者の口腔の微生物学的な研究について説明できる。 (12) 高齢者の唾液検査法の研究について説明できる。 (13) 高齢者の栄養状態の評価と管理の研究について説明できる。 (14) 高齢者の在宅歯科医療と多職種連携の研究について説明できる。 (15) 高齢者歯科学における研究計画の立案について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	・Prosthodontic Treatment for Edentulous Patients(12th. Ed.) ・Textbook of Geriatric Dentistry (3rd. Ed.) ・よくわかる高齢者歯科学		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・火曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談の上、変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(口腔インプラント学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 近藤尚知	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜日・1又は2時限 場所:補綴科診療室・手術エリア
一般目標			
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 歯の欠損の生じる原因と歯の欠損に対する治療方法が実践できる。 (2) インプラント体と上部構造の構成要素を説明できる。 (3) 補綴主導型インプラント治療が実践できる。 (4) CTの画像上で血管・神経の走行について説明できる。 (5) インプラント治療に際し、必要な検査を実践できる (6) シミュレーション診断を埋入シミュレーションの基本原則に基づいて遂行できる。 (7) ガーデッド・サージェリーを遂行できる。 (8) インプラント埋入手術に必要な器材を準備し手術を遂行できる。 (9) インプラント治療に必要な骨造成手術を実践できる。 (10) インプラント治療における2次手術、結合組織移植術、遊離歯肉移植術等を遂行できる。 (11) インプラント治療における印象採得に必要な器具を準備し、それを実践できる (12) 口腔内スキャナーによる光学印象採得法を遂行できる。 (13) インプラントの上部構造に用いる材料と製作法(CAD/CAM)について歯科技工士に指示できる。 (14) インプラントに適切な咬合を付与できる。 (15) インプラント周囲炎の検出方法と治療方法を実践できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	配布資料を使用する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・水曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科補綴学(冠・橋義歯学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 近藤 尚知 橋本 和佳 佐久間 重光	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜日・1又は2時限 場所:補綴科診療室等
一般目標	咬合検査と咬合診断に必要な咬合理論を理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 顎口腔系の構成要素と顎口腔機能を説明できる。 (2) 下顎位・顎運動・咬合・歯冠形態に関する基本的事項を説明できる。 (3) 望ましい咬合と咬合異常を説明できる。 (4) 咬合と咀嚼機能の関係を説明できる。 (5) 口腔内スキャナーによる光学印象採得法を説明できる。 (6) 咬合器の性能と操作方法を説明できる。 (7) 咬合の基本的検査法を説明できる。 (8) 顎口腔機能検査:筋電図検査・顎運動検査の方法と診断基準を説明できる。 (9) 顎口腔機能検査:咬合検査・咀嚼能力の方法と診断基準を説明できる。 (10) 半調節性咬合器の基本的な操作法を説明できる。 (11) 全調節性咬合器の基本的な調節法を説明できる。 (12) 咬合治療の原則を説明できる。 (13) 顎間関係記録に必要な咬合理論を説明できる。 (14) 咬合調整に必要な咬合理論を説明できる。 (15) 顎機能障害のスプリント療法に必要な咬合理論を説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	特になし		
成績評価の方法 備考	授業への積極性、学習成果の発表内容およびレポート等による。		

科目名	口腔外科学(全身疾患関連口腔内科学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 阿部 厚	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:病院診療室
一般目標	各口腔外科疾患に特徴的な外科的治療法を中心として療法を習得することを目的とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 腫瘍性疾患 ①歯原性腫瘍を説明できる。 (2) 腫瘍性疾患 ②非歯原性腫瘍を説明できる。 (3) 腫瘍性疾患 ③口腔悪性腫瘍を説明できる。 (4) 腫瘍性疾患 ④口腔悪性腫瘍の治療法を説明できる。 (5) 顎変形症疾患 ①病態を説明できる。 (6) 顎変形症疾患 ②治療法について説明できる。 (7) 顎関節疾患 ①顎関節症を説明できる。 (8) 顎関節疾患 ②強直症を説明できる。 (9) 顎関節疾患 ③顎関節の腫瘍性病変を説明できる。 (10) 唾液腺疾患 ①唾液腺の炎症・嚢胞を説明できる。 (11) 唾液腺疾患 ②唾液腺摘出術を説明できる。 (12) 神経疾患 病態と治療について説明できる。 (13) デンタルインプラントを説明できる。 (14) 摂食嚥下障害を説明できる。 (15) 隣接科との連携について説明できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	口腔外科学 医歯薬出版。 適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	口腔外科学(病因病態制御口腔顎顔面外科学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 後藤 満雄 宮地 齊 渡邊 哲	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:口腔顎顔面外科学講座研究室又は病院診療室
一般目標	口腔顎顔面外科の病態解析、研究手法などを知り、疾患の理解が出来ることを目標とする。各疾患について討論し、口腔顎顔面外科臨床と研究をより理解することを目標とする。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) ガイダンス (2) 画像を用いた診断を通して顎変形症の解析研究を示すことができる。 (3) 口腔顎顔面の腫瘍性病態と遺伝子研究を関連づけることができる。 (4) 口腔顎顔面の腫瘍性病態と腫瘍免疫研究を関連づけることができる。 (5) 口腔顎顔面の腫瘍性病態と病理組織学的研究を関連づけることができる。 (6) 口腔顎顔面の先天異常病態と遺伝子研究を関連づけることができる。 (7) 摂食・嚥下機能障害の解析研究を示すことができる。 (8) 臨床研究について具体的に立案できる。 (9) 臨床研究の分析について説明できる。 (10) 基礎研究について具体的に立案できる。 (11) 研究手法について説明できる。 (12) 関連研究について文献的考察ができる。 (13) 学会発表に必要な準備と知識を習得する。 (14) 論文発表に必要な準備と知識を習得する。 (15) 口腔顎顔面の疾患の診断/治療/予後を判断して議論することができる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・木曜日・5時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談の上変更することができる。毎月第二火曜日3、4時限(日にち変動あり)に8回以上出席し発表すること、あるいは、歯科口腔外科第2診療部での患者実習で単位を置き換えることができる。		

科目名	口腔外科学(言語・口腔先天異常学)演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 夏目 長門 新美 照幸	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1~2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・2時限 場所:愛知学院大学歯学部附属病院
一般目標	口腔ケアについて、症状別・疾患別の基礎的・臨床的研究の概要を理解する。 医療分野での国際協力システムに関する実態を理解して、その業務を行う上での基礎知識と経験を得る。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 口腔ケア総論 口腔ケアについて、その意義と実際を説明できる。 (2) 症状別口腔ケアを理解して説明できる。 (3) 口腔ケアに関連した機能障害を理解して説明できる。 (4) リハビリテーションとしての口腔ケアを理解して説明できる。 (5) 機能障害別の口腔ケアを理解して説明できる。 (6) 摂食障害の口腔ケアを理解して説明できる。 (7) 構音障害の口腔ケアを理解して説明できる。 (8) 国際協力に関する一般的な知識を有し説明できる。 (9) 発展途上国の現状と国際貢献の重要性について医療の立場から説明できる。 (10) NGOによる国際協力について説明できる。 (11) 国際協力学総論 国際協力に関する一般的な知識を有し、説明できる。 (12) 日本国際協力の現状と展望について説明できる。 (13) 国連等の国際機関の現状と展望について説明できる。 (14) NGO産学官連携の重要性について説明できる。 (15) 国際医療貢献の展望について理解して実践する上での基礎知識と経験を得る。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	1. 日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト 上・下巻(夏目長門 編) 2. Manual for Oral Care(Nagato Natsume)(夏目長門 編) 3. Text Book for Oral Care (Nagato Natsume) 4. がん患者の口腔ケア(夏目長門 編) 5. 認知症高齢者の口腔ケアの理解のために(監修 夏目長門) 6. 国際貢献(大塚吉兵衛 編 分担 夏目長門 著) 7. ATLAS of Oral Disease (Nagato Natsume)		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては春学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科矯正学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 宮澤 健 藤原 琢也 田淵 雅子 佐藤 琢麻	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:木曜日・3時限 場所:附属病院2階 矯正歯科治療室および医局
一般目標	成長発育の分析、評価と矯正歯科治療への応用を習得するとともに、総合診断ならびに治療方針、方法の立案を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 身長体重からの発育曲線を示すことができる。 (2) 骨年齢の計測と評価について説明することができる。 (3) 各種生理的年齢の評価ができる。 (4) 口腔内の発達程度の評価ができる。 (5) 先天性欠如歯の確認ができる。 (6) 埋伏歯の位置が診断できる。 (7) セファログラムの分析について説明することができる。 (8) セファログラムを用いた成長予測について説明することができる。 (9) VTOを作製し評価できる。 (10) 模型を計測し診断できる。 (11) 各種エックス線写真、歯科用CT撮影画像の読影ができる。 (12) 総合診断の立案ができる。 (13) 治療方針の立案ができる。 (14) 歯科矯正用アンカースクリューの特性を理解し、臨床応用ができる。 (15) 顎変形症の成因と特徴を理解し、診断・治療方針の立案ができる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	適宜、資料を配布する。		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・木曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	小児歯科学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 名和 弘幸	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:金曜日・1又は2時限 場所:小児歯科学講座研究室
一般目標	小児歯科・障害児歯科臨床のために必要な患児、保護者とのコミュニケーション技法、治療計画の立案や齶蝕予防および齶蝕処置、咬合管理などの基本的な技能、態度、知識に対する教育方法の基礎を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 小児・障害児歯科学教育法を説明できる。 (2) インフォームドコンセントについて説明できる。 (3) エックス線写真の読影ができる。 (4) 頭蓋顎顔面、歯列・咬合、歯の発育評価ができる。 (5) 初診時医療面接を説明できる。 (6) 診察に基づく診断・治療方針の立案ができる。 (7) フッ化物の応用について説明できる。 (8) 予防填塞について説明できる。 (9) 小児・障害児への局所麻酔法を説明できる。 (10) 乳歯、幼若永久歯の歯冠修復・歯内療法について説明できる。 (11) 咬合誘導法を説明できる。 (12) 外傷歯の処置について説明できる。 (13) 小児の口腔習癖への対応と口腔筋機能療法(MFT)ができる。 (14) 摂食・嚥下指導法の説明ができる。 (15) 患児・保護者への歯科保健支援について説明できる 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	特になし		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。なお、職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・金曜日・6時限を予定する。		

科目名	歯科放射線学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 木瀬 祥貴	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:火曜 4時限 場所:
一般目標	CT・超音波等の特殊な画像検査法を習得する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 特殊画像検査の概略を説明できる。 (2) CT検査(上顎洞疾患)を実践できる。 (3) CT検査(嚢胞性疾患)を実践できる。 (4) CT検査(歯原性腫瘍)を実践できる。 (5) CT検査(悪性腫瘍)を実践できる。 (6) CT検査(炎症性疾患)を実践できる。 (7) CT検査(顎関節)を実践できる。 (8) 造影CT検査を実践できる。 (9) 歯科用CT検査(歯髄疾患)を実践できる。 (10) 歯科用CT検査(歯周疾患)を実践できる。 (11) 歯科用CT検査(埋伏歯)を実践できる。 (12) 超音波検査(Bモード)を実践できる。 (13) 超音波検査(ドブラ法)を実践できる。 (14) 超音波検査(エラストグラフィ)を実践できる。 (15) 唾液腺造影検査を実践できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	なし		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・火曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談の上変更する場合がある。		

科目名	歯科麻酔学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 佐藤曾士	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:水曜日1又は2時限 場所:麻酔学講座研究室
一般目標	歯科麻酔領域における研究の立案と実施方法を演習を通して学ぶ。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 神経障害性疼痛に関する研究(動物モデル)について説明できる。 (2) 神経障害性疼痛に関する研究(免疫染色)について説明できる。 (3) 神経障害性疼痛に関する研究(人為的アストロサイトの活性化)について説明できる。 (4) 神経障害性疼痛に関する研究(人為的ミクログリアの活性化)について説明できる。 (5) 神経障害性疼痛に関する研究(脳の透明化)について説明できる。 (6) 臨床研究法に基づく臨床研究(歯科麻酔学領域)について説明できる。 (7) 臨床研究法に基づく臨床研究の意義について説明できる。 (8) 臨床研究法に基づく臨床研究の種類について説明できる。 (9) 統計学的検定とその解釈について説明できる。 (10) 経鼻気管挿管に関する臨床研究について説明できる。 (11) 前向き研究におけるサンプルサイズ決定法について説明できる。 (12) 得られたデータの解釈方法について説明できる。 (13) 研究プレゼンテーション方法について説明できる。 (14) 論文の批判的吟味について説明できる。 (15) 論文の作成方法について説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	Anesthesia, edited by RD. Miller, Churchill-Livingstone 歯科麻酔学、金子讓監修、医歯薬出版		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・水曜日・6時限を予定しているが、開		

科目名	歯科病態内科学演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 成瀬 桂子 中村 信久	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日 場所:内科学講座研究室
一般目標	歯科疾患と関連する内科疾患に関する診断と治療法について理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	<ol style="list-style-type: none"> (1) 歯科疾患に関連する循環器疾患(心不全、虚血性心疾患)の診断と治療法について説明できる。 (2) 歯科疾患に関連する循環器疾患(不整脈、心臓弁膜症)の診断と治療法について説明できる。 (3) 歯科疾患に関連する代謝疾患(糖尿病)の診断と治療法について説明できる。 (4) 歯科疾患に関連する代謝疾患(メタボリックシンドローム、ビタミン欠乏症等)の診断と治療法について説明できる。 (5) 歯科疾患に関連する内分泌疾患の診断と治療法について説明できる。 (6) 歯科疾患に関連する腎疾患の診断と治療法について説明できる。 (7) 歯科疾患に関連するアレルギー疾患の診断と治療法について説明できる。 (8) 歯科疾患に関連する神経疾患(脳血管障害)の診断と治療法について説明できる。 (9) 歯科疾患に関連する神経疾患(神経変性疾患、認知症等)の診断と治療法について説明できる。 (10) 歯科疾患に関連する消化器疾患の診断と治療法について説明できる。 (11) 歯科疾患に関連する感染症の診断と治療法について説明できる。 (12) 歯科疾患に関連する呼吸器疾患の診断と治療法について説明できる。 (13) 歯科疾患に関連する血液疾患の診断と治療法について説明できる。 (14) 歯科疾患に関連する膠原病(関節リウマチ、SLE等)の診断と治療法について説明できる。 (15) 歯科疾患に関連する膠原病(Sjögren症候群、Behçet病等)の診断と治療法について説明できる。 		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・参考書等	内科学(第12版)矢崎義雄、小室一成 総編集 朝倉書店 配布資料		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

科目名	歯科病態関連外科学(外科腫瘍学) 演習		
担当教員 (○:責任者)	○ 野本 周嗣	単位数:2単位 (90分授業15回)	受講学年:1又は2学年 開講学期:秋学期 曜日・時限:月曜日3又は4時限 場所:外科学講座研究室
一般目標	患者の周術期管理に必要な知識に関して演習を通じて深く理解する。		
到達目標 ()内は 講義回を示す	(1) 循環器疾患既往のある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (2) 呼吸器疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (3) 神経・感覚器疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (4) 腎疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (5) 肝疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (6) 消化管疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (7) 血液・凝固線溶疾患既往のある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (8) 免疫・アレルギー疾患既往のある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (9) 感染症と口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (10) 運動器疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (11) 代謝・内分泌疾患既往のある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (12) 栄養管理と口腔疾患症例の注意点を評価できる。 (13) 水・電解質の管理が必要な口腔疾患症例の注意点を評価できる。 (14) 生殖器疾患・腫瘍の既往がある口腔疾患症例のリスクを評価できる。 (15) 高齢者の口腔疾患症例のリスクを評価できる。		
授業前後の学修	1回の授業について、授業時間に等しい時間の予習と復習が必要である。 各回の到達目標を参考にして予習することが求められている。		
テキスト・教材・ 参考書等	標準外科学第17版、田邊 稔監修、医学書院		
成績評価の方法	授業への貢献度、学習成果の発表内容およびレポート等による。		
備考	職業を有するなどの理由により受講が困難な学生に対しては秋学期・月曜日・6時限を予定しているが、開講時間・場所については受講者と相談のうえ変更する場合がある。		

歯学特別研究(研究指導)

研究指導教員および研究指導補助教員のもと、歯学領域における高度な学術的理論と研究技法を修得する。研究活動を通じて、自ら課題を発見し、適切な方法で解決へ導く力を養うとともに、教員との深い議論を通じて研究を遂行する能力を身につける。これらを基盤として、歯学における独創的かつ先駆的な研究を自立して推進できる能力を修得する。

担当研究室	担当教員	研究指導テーマ
口腔組織・発生学	本田 雅規 教授	細胞生物学および組織学的手法を基盤として、幹細胞の分化制御機構と組織再生過程の理解を目的とした再生医学研究に関する研究指導を行う。
口腔解剖形態学	山本 将仁 教授	系譜追跡・空間トランスクリプトーム解析・三次元組織解析などの手法を用いて、頭部神経堤細胞が二つのニッチを経て筋内腱へ段階的に遊走する新規原理と、その制御機構に関する研究指導を行う。
口腔生理学	豊田 博紀 教授	神経や筋の電気活動を記録できる様々な神経生理学的手法を用いて、咀嚼、嚥下、味覚受容などの口腔機能の制御機構を細胞からシステムレベルで明らかにする研究。
口腔生化学	鈴木 崇弘 教授	生化学・分子生物学・細胞生物学の手法と生物発光を利用した手法を用いて、骨代謝・血糖値調節などにおける分泌タンパク質・膜タンパク質の調節機構に関する研究指導を行う。
口腔病理学	杉田 好彦 准教授	病理学・分子生物学・組織形態学的手法を用いて、口腔病変の臨床病理学的研究・実験病理学的研究・分子生物学的研究に関する研究指導を行う。
宇宙歯学	宇宙歯学 教員	宇宙歯学の研究指導テーマは、微小重力や閉鎖環境などの宇宙特有の条件が口腔組織や口腔機能に及ぼす影響を明らかにし、宇宙滞在や宇宙旅行における口腔健康管理と歯科医療の確立を目指すこととする。
口腔微生物学	長谷川 義明 教授	主に歯周病原菌の病原性および免疫応答に着目し、微生物の分子遺伝学的、タンパク質工学的、ならびに免疫学的解析法を用いた研究指導を行う。
歯科薬理学	濱村 和紀 教授	細胞培養系、遺伝子改変マウスを用いた実験系など様々な実験手法を駆使して、糖鎖修飾が骨代謝機構や癌、神経変性疾患などの発症機構にどのように関わっているのかを解明できるように研究指導を行う。
歯科理工学	林 達秀 教授	生体材料に関する基礎的知識・技術および、各種分析器機の使用法と分析データの解析法を指導する。
保存修復学	辻本 暁正 教授	国際的な研究動向を踏まえ保存修復学分野の研究課題を俯瞰的に捉え、歯の長期的保存および口腔機能の維持に資することを目的として、齶蝕制御、接着歯学、ならびにレーザーの歯科応用に関する研究を指導する。
歯内治療学	諸富 孝彦 教授	歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因・病態の解明、画像診断法、治療用機器・器材・材料ならびに新規手技の開発、そして象牙質・歯髄複合体再生療法確立に関する研究指導を行う。
歯周病学	三谷 章雄 教授	免疫学・細胞分子生物学・微生物学の研究手法を用いて、歯周病や歯周病が影響する疾患の病態解析、免疫生物学的解析、再生・治癒のメカニズム解析等に関する研究指導を行う。
有床義歯学	武部 純 教授	有床義歯補綴学・顎顔面補綴学に関する基礎的・臨床的研究指導、生体材料を応用した骨組織再生法に関する研究指導を行う。
	尾澤 昌悟 特殊診療科教授	顎顔面補綴治療の基礎と臨床について指導すると共に、基礎的な研究手法を用いて顎骨の再生と三次元構築を目指す研究指導を行う。
高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 教授	補綴治療において臨床現場で直面する課題を出発点とし、科学的手法に基づいた臨床研究を通じて実用的なエビデンスを構築する。研究の企画立案からデータ収集・解析、成果の臨床応用までを一貫して指導し、診療現場への還元を可能とする実践的な研究力の養成を目指す。
冠・橋義歯学	近藤 尚知 教授	クラウンブリッジ関連の臨床手技の指導を行う。またその関連の技術開発に関する研究を指導する。臨床統計などの研究についても指導する。
口腔インプラント学	近藤 尚知 教授	口腔インプラント関連の臨床手技の指導を行う。またその関連の技術開発に関する研究を指導する。臨床統計などの研究についても指導する。
全身疾患関連口腔内科学	阿部 厚 教授	口腔内科学の基礎と臨床応用を深く理解し、全身疾患と口腔症状の関連を把握し、診断・治療計画を立案できる能力を養うと同時に、臨床研究とエビデンス構築について研究指導する
病因病態制御口腔顎顔面外科学	後藤 満雄 教授	口腔癌および口腔粘膜疾患の臨床・病理学的・分子生物学的研究。口腔癌における抗腫瘍免疫に関する研究。頭蓋顎顔面の形態分析と遺伝子分析に関する研究。摂食・嚥下障害の評価とリハビリテーション。口腔顎顔面領域の先天異常疾患の研究。
言語・口腔先天異常学	夏目 長門 特殊診療科教授	言語学、口腔先天異常学、口腔ケア学、国際料力学について深く理解すると共に研究を通じて本学の建学の精神を学ぶ。

担当研究室	担当教員	研究指導テーマ
歯科矯正学	宮澤 健 教授	歯の移動や顎骨の成長発育に関連する骨改造現象を対象に、組織学、病理学、生化学、薬理学、微生物学の視点からそのメカニズムを明らかにする研究指導を行う。加えて、矯正装置・材料の歯科理工学的な改良および開発に取り組み、新たな矯正治療法の確立に向けた臨床研究の指導も行う。
小児歯科学	名和 弘幸 教授	小児・障害児者の歯科診療時の行動調整法、う蝕予防効果を備える歯科材料の応用、歯髄幹細胞を用いた歯髄・歯周組織再生法に関する研究指導を行う。
歯科放射線学	歯科放射線学 教員	歯科用コーンビームCTなどの特殊な検査法を実施し、その画像を用いて画像診断学研究に関する手法を取得する。
口腔衛生学	嶋崎 義浩 教授	歯と口腔の健康増進を臨床歯科学という面から研究する方法と科学について、口腔衛生学研究で用いられる方法・手技を応用して研究を遂行できるよう指導を行う。
歯科麻酔学	佐藤 曾士 教授	神経障害性疼痛研究および臨床研究法に基づく歯科麻酔学領域の臨床研究を軸とし、動物モデル・免疫染色・細胞活性化操作・脳透明化技術を用いた基礎研究から、サンプルサイズ設計・統計的検定・データ解釈に基づく臨床研究指導を行う
歯科病態内科学	成瀬 桂子 教授	歯科疾患と関連する内科疾患について理解し、医科歯科連携を基軸とした基礎研究、疫学研究について研究指導を行う
歯科病態関連外科学(外科腫瘍学)	野本 周嗣 教授	全身の疾病と腫瘍・歯科の疾患や病態との相互関連を外科的な視点で検討する研究の指導を行う。